

第3回明日香村小委員会における各委員からの指摘事項等

(資料5-1「明日香村小委員会報告(案)」に沿った整理)

1. これまでの取組みの評価に関すること

1) 観光・交流の振興に関すること

- ①音声案内システム機能を搭載し飛鳥地方を周遊できる超小型モビリティのレンタルサービスを10月より開始し始めた。

2. 当面取り組むべき施策のあり方に関すること

1) 歴史的風土の維持・向上に関すること

- ①電線類の地中化をもっと進められたらと思っており、その旨、報告(案)に入れて欲しい。
- ②農地や林地を村民だけで維持管理するのは困難なので、NPOなど村外の人をもう少し積極的に活用できる仕組みを何とかできないか。
- ③大字景観計画が普及して意識が高まり、村民のアイデンティティや誇りを景観づくりコンテストのような具体的な施策に結び付けられると非常に良い。

2) 明日香を支える「農」の維持・再生に関すること

- ①農地の維持管理への支援制度などを積極的に活用する方向性が示されると、農業の担い手確保にもつながるのではないか。
- ②地域振興公社の積極的な農業経営に加え、企業の農業への参画あるいは集落営農の企業化を推進し、農業労働者として担い手を確保することなども検討の必要があるのではないか。

3) 観光・交流の振興に関すること

- ①MICHIMOについて、レンタサイクルと同様の当面の取組が必要であるので追記して欲しい。また、ポケットパークやトイレなどと合わせた施設整備なども必要である。
- ②民家の外観は保ちながら、内部を改修した一棟貸しの宿泊施設が村内にも複数あるが、明日香に相応しい古民家再生の具体的なイメージを共有した上で取組みを進めるべき。
- ③橿原市や桜井市などに宿泊した観光客に循環バスで来てもらうなど、隣接都市と連携した観光の工夫を行うべき。
- ④来訪者数が低迷する中で、外国人旅行客に多言語化したパンフレットを配布するなど、国際的な情報発信をより強化すべき。

4) 住みたくなる村づくりに関すること

- ①明日香に関係のある事業所のサテライトオフィスを誘致する取組みを近いうちに始める予定のため、それが読み取れる内容にして欲しい。

3. 将来的な取組みのあり方に向けた今後の議論の方向性に関すること

1) 歴史的文化的遺産の保存と活用に関すること

- ①都塚古墳などの発掘成果が出てきており、また、牽牛子塚古墳などの整備を推進していきたいと考えているので、その旨、報告（案）に表現して欲しい。

2) 歴史的風土にふさわしい景観の形成に関すること

- ①民有林の荒廃が進み自然環境面からの取組みが必要とされる中で、林地の9割以上を占める針葉樹林は原風景とは異なり、土砂災害の危険性も孕んでいることから、里山周辺から風土に合った広葉樹に戻す方向で取組むべき。
- ②林地の維持管理については、課題であることは確かなので、報告の中でもしっかりと記述して、課題として解決策を探っていくべきである。
- ③空き家の有効活用については、所有者の維持管理の責務や景観への影響を考慮するなど踏み込んだ内容や、租税措置などを検討するなどにより、1つのモデルを提示することになるのではないか。
- ④国営公園の整備に伴って公有地化した農地について、作物を販売できないというルールに関わる人のモチベーションを下げってしまう。うまく理由を付けて実験的な農法を採り入れるなど地元が自由に動ける方がよい。

3) 地域産業振興による地域活力の向上に関すること

- ①観光客が利用する既存の施設は運営主体も異なり、全体を包括する情報拠点にはなっていないため、ワンストップで情報提供などの対応ができ、観光客が立ち寄れる拠点施設の検討を始めないといけない。

4) 歴史的風土を支える担い手の育成と確保に関すること

- ①総合計画でも位置付けられている産業集積ゾーンの活用に向けて、産業集積あるいは連携の取組みを行うべきであり、その旨を報告（案）に記述して欲しい。
- ②子育てがしやすい村にすることを明確に打ち出し、子育て世代が入って、出て行かないよう教育支援にもっと踏み込んでいかないと、担い手減少は防げない。

5) 歴史的風土と調和した生活環境基盤の整備に関すること

- ①木柱が多いことで光ケーブルの敷設が進まず、村民生活に支障があるだけでなく、Wi-Fiフリーの環境がないことで外国人旅行者からの評判が悪くリピーターにつながらないため、山間部であっても景観に配慮する形で情報基盤整備を是非進めてほしい。